



肥満および2型糖尿病の血清 vaspin 濃度

KEYWORDS// 血清 vaspin, 肥満, 2型糖尿病

Vaspin (visceral adipose tissue-derived serpin) はインスリン鋭敏効果を有するアディポカインと見なされ、2型糖尿病のラットモデルにおいては内臓脂肪組織から主に分泌されている。著者らは最近脂肪組織の vaspin mRNA 発現が肥満とグルコース代謝のパラメーターに関係があることを示した。しかし、ヒトの肥満および2型糖尿病における血清 vaspin 濃度の調節については不明であるので、この点について検討した。血清 vaspin の測定は ELISA 法を開発し、これにより広範囲の肥満、体脂肪分布、インスリン感受性、グルコース耐性を有する 187 人の横断研究および4週間の身体トレーニング前後の正常グルコース耐性者 (NGT)、異常グルコース耐性者 (IGT)、2型糖尿病患者

の 60 人における循環 vaspin 濃度を評価した。血清 vaspin 濃度は男性に比べて女性で有意に高値であり、NGT と 2 型糖尿病患者間に有意差は認められなかった。NGT における血清 vaspin 濃度は BMI およびインスリン感受性と相関していた。さらに、4 週間の身体トレーニングは血清 vaspin の有意な増加をもたらした。高血清 vaspin 濃度は肥満およびインスリン感受性の悪化と関係があり、低血清 vaspin 濃度は健康状態の良好さと相関していた。

(Youn BS, Klötting N, Kratzsch J, et al : Serum vaspin concentrations in human obesity and type 2 diabetes. Diabetes 57 : 372-377, 2008)

(埼玉県立大学保健医療福祉学部 鈴木優治)